

検体 I (試料① ②) 回答集計

施設名							
		施設コード	201	202	203	204	205
問1. 血液型検査を実施して下さい		回答	1	1	1	1	1
1 参加 2 不参加 1試験管法 2カラム凝集法 3その他()		回答	2	2	2	1	1
2.反応態度 表検査 抗A抗体 抗B抗体 抗D抗体 Rhコントロール		回答	4+	4+	4+	4+	4+
			4+	4+	4+	4+	4+
			0	0	-	0	0
			0	0	-	0	0
			0	0	-	0	0
裏検査 A血球 B血球 O血球		回答	0	0	-	0	0
3追加検査およびその他の検査		回答	抗D血清との反応で陰性のため各種抗D血清との反応を確認。IgM、	D陰性確認試験 陰性 Rh血液型 ccdee	Du試験(陰性)	D陰性確認試験を実施し、抗D抗体およびRhコントロールがともに0である	抗A1レクチン(3+)、抗Hレクチン(+/-) D陰性確認試験を追加
4.判定		回答	AB型RhD(-)	AB型RhD陰性	AB型Rh(-)	AB型Rh(-)	AB型 Rh(D)陰性
問2. 不規則抗体検査を実施して下さい		回答	1	1	1	1	1
1 参加 2 不参加 1試験管法 2カラム凝集法 3その他()		回答	2	2	2	1	1
1 陽性 2 陰性		回答	2	2	2	2	2
疑われる抗体名		回答	可能性有 特定不可 抗体	なし			
同定検査 1 参加 2 不参加 1試験管法 2カラム凝集法 3その他()		回答	2	2	3	2	
追加検査およびその他の検査		回答					
コメント		回答					
主治医に報告することがあれば記入してください。		回答	患者の血液型はAB型RhD(-)だったと報告。院内にはRhD(-)の在	患者様はAB型RhD陰性でしたが、現在輸血室にはAB型RhD陰性の赤血		患者はAB型Rh(-)のため、血液センターに在庫を問い合わせ、その状	日本人でAB型でRhマイナス出現率は0.05%(2000人に1人)です。

206	207	210	211	217	218	220	223
1	1	1		1	1	1	1
1	2	2		1	1	1	1
4+	4+	4+		4+	4+	4+	4+
4+	4+	4+		4+	4+	4+	4+
0	0	0		0	-	0	0
0	0	0		0	-	0	0
0	0	0		0	-	0	0
0	0	0		0	-	0	0
		NT		0	-	NT	
Du確認試験(0)	カラム凝集法でRhD陰性となったので、以下の検査を追加	D陰性確認試験: 抗D血清(0)、Rhコントロール(0)⇒Rh(D)陰性		D陰性確認試験	Rh陰性確認試験、Du因子確認試験 抗D(-)、Rhコントロール	D陰性確認試験を実施 37°C 30min (-)	D陰性確認試験
AB(-)	AB型RhD陰性	ABO血液型: AB型 Rh(D)陰性		抗D血清(0)、Rhコントロール(0)⇒AB型 Rh	AB型陰性	表試験 AB型 裏試験 AB型	AB型D(-)
1	1	1		1	3	1	1
1	2	2		1		2	1
2	2	2		2		2	2
						なし	
3		1		2		3	2
同型があるかどうか、ない	①RhD陰性であり、院内に在庫がなく血液センターからの取り寄せになる	①患者はAB型Rh(D)陰性で、輸血の際にはRh(D)陰性血が必要。		血液型がAB型のRho(D)陰性である事と入手に時間を要する事を伝		AB型 Rh(D)陰性の血液型の方ということを伝える。	患者の血液型がAB型D(-)ということ伝えて、可能な限りAB型D(-)血を

225	226	230	234
1	1	1	1
1	1	1	1
4+	4+	4+	4+
4+	4+	4+	4+
0	0	0	0
0	0	NT	NT

0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	NT

D陰性確認試験 由来の異なる抗D試薬 で検査	D陰性確認試験 37°C30分クームス抗D (-)Rhコントロール(-)	D陰性確認試験	Rh(D)陰性確認試験 → 陰性(-)
AB型RhD陰性	AB型Rh(D)陰性	AB型(-)	AB型 Rh(-)

1	1	1	1
1	1	1	1
2	2	2	2

2	3	3	2

			抗D抗体は、Rh系抗原の中で免疫原性が最も強いので、D抗原陰性血を準備する。 RBC・FFP・PCは、A
患者はAB型RhD陰性のため、緊急で同型適合血を準備するには適合		AB型(-)血液は、計算上2000人に1人の割合で非常に血液確保が難	D抗原陰性血の頻度は0.5%であり、準備するのに1~2日要し

211	217	218	220	223	225	226	230	234
	1	1	1	1	1	1	1	1
	1	1	1	1	1	1	1	1
	0	-	0	0	0	0	0	0
	0	-	0	0	0	0	0	0
	4+	3+	4+	2+	4+	4+	4+	4+
	0	-	0	0	0	0	NT	NT
	4+	4+	4+	3+	4+	4+	3+	4+
	4+	4+	4+	3+	4+	4+	3+	4+
	0	-	NT		0	0	0	NT
	特になし		なし		なし			
	表O型 うらO型 総合判定 O型Rh(D)	O型(+)	表試験 O型 裏試験 O型	O型D(+)	O型RhD陽性	O型Rh(D)陽性	O型(+)	O型 Rh(+)
	1	3	1	1	1	1	1	1
	1		2	1	1	1	1	1
	1		1	1	1	1	1	1
	可能性の高い抗体として抗Fybが疑われます。(サージスクリーン+Dia)血球を2ロット使用し、共		サージスクリーンを2 可能性の高い抗体・・・ 否定できない抗体・・・ 抗E、抗K、抗Jka、抗J	抗Fyb	可能性の高い抗体:抗Fyb 否定できない抗体:抗	抗Fyb、抗Sが消去出来 ませんでした。	抗C、E、Fyb、Jkb、 Lea、M、S	抗Fyb抗体
	2		3	1	1	3	3	1
				1	1			1
			不規則抗体同定検査	否定できない抗体の存在の有無を抗血清を使用して明らかにする。別ロットのパネル血球を用	パネルセルで同定 赤血球抗原検査 Fisherの確率計算			パネル血球による同定検査 → 抗Fyb抗体
					抗Fybが同定された。			
	2	2	2	2	2	2	2	2
	2	2	2	2	2	2	2	2
	1	1	1	1	1	1	1	1
	3本中適合の製剤(試料⑦)のみ使用可能です。	⑤⑥⑦プロメリンでは凝集(-) ⑤⑥Pegクームスで凝集			⑤⑥はFyb抗原陽性のため凝集を認め不適合、⑦はFyb抗原陰性のみ凝集を認め不適合	2単位製剤3本中1本のみ適合でした。		⑤ IAT(3+) ⑥ IAT(3+)
	①不規則抗体スクリーニング陽性のため不規則同定検査が必要である ②主治医へは不適合輸血の危険性と輸血中か	不規則抗体を保有しているので一外法適合血をさがしてから	①不規則抗体スクリーニング陽性のため、同定検査が必要である ②輸血後のフォロー(副作用の有無)を確認	①適合血が院内に所有している製剤では2単位しかない伝える。過去	①患者はDuffy式血液型に対する抗体の抗Fybを保有しており、②運搬性溶血性輸血副作用が起こる可能性を	①不規則抗体陽性で何%の適合率です。抗原陰性血を選択しな	疑われる抗体があるので精査して同定してから、抗体陰性の血液を	①抗Fyb抗体を保有していると推測され、溶血性輸血副作用を引き起
	1	1	2	1	1	1	1	1
	32倍	16倍		64倍	16倍	64倍	64倍	32倍
	3+	3+		2+	3+	3+	4+	3+
	抗IgG	抗IgG		抗IgG	抗IgG	抗IgG	抗IgG	抗IgG